

『着飾之由来』

村上, 義明
九州大学大学院 : 博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/1909552>

出版情報 : 文獻探究. 55, pp.1-, 2017-03-31. 文獻探究の会
バージョン :
権利関係 :

『着飾之由来』 (九州大学附属図書館 雅俗文庫蔵)



(一) 雅俗文庫『着飾之由来』



(二) 内閣文庫『天保雜記』「万国渡来怪物」

解説

村上義明

今回紹介するのは雅俗文庫に蔵される『着飾之由来』（中本一冊、写、雅俗文庫57・6・13）である。口絵（一）には、その見返しに描かれたけど、その一本文にそう記される――「着飾」の図像を挙げてみる。

本書は天保期に街中を闊歩した「着飾」の特徴を説く体で、奢侈にふける当時の人々の考え方や実態を揶揄したものである。その姿は人に似て、鼈甲の簪、綾羅錦繡を纏う。顔は大きく（厚かましい意）、目は上に付いて下を見ないことに加え、向う見ずである。やせ我慢をし、人の言葉には耳を貸さない。やみ雲に乗って有頂天に登り、鼻は高く、美味を食しながら飽くことを知らない。常々太平楽を謡い、二枚舌をふる。負け惜しみが強く、人より上に立つことを好むといった具合である。

この「着飾」には別の姿がある。それは国立公文書館内閣文庫に蔵される『天保雑記』（半紙本五十六冊、写、150・0150）の第二十一冊に収載される「万国渡来怪物」に描かれたもので、口絵（二）に掲載している。こちらは平成二十七年十二月十三日の国立公文書館のツイッター公式アカウント（@JPNatArchives）で紹介され、少しく反響を呼んだ。該当記事を次に引用する。

画像は、わが国に渡来し、またたく間にはびこった珍獣「着飾」。破産をもたらず「誠に恐ろしきけどもの」で、習性はいつも上を見ていて無い袖を振りたがる、見栄っ張りで、贅沢好きだそうです。今なら、さしずめファッションモンスターかな？¹

『天保雑記』は剣術指南を家業とした藤川整斎（一七九一―一八六二）による天保二年から同十五年にわたる諸記録・見聞記で、内閣文庫所蔵史籍叢刊第三十二―三十四に影印が収録される。南和男氏による解題の一部を挙げる。

本書には天保十二年（一八四一）から同十四年（一八四三）にかけて行なわれた、老中水野忠邦による幕政改革に関する重要な記述が少なくない。それもたんに法令を集成したものではなく、整斎の見聞したと思われる他書には見られないものが多々含まれてあり、貴重なものがある。〈略〉多くの瓦版をはじめ見世物、錦絵、歌謡、敵討の記述など、広く社会・世相の動向を示すものが少なくないのである。² なお『着飾之由来』と『天保雑記』「万国渡来怪物」の翻刻は本号に掲載している。興味のある方はこちらを参照願いたい。

〈注〉

1 国立公文書館のツイッター公式アカウント（https://twitter.com/JPNatArchives/status/676174888105844736/photo/1?ref_src=twsrc%5Etfw）〈2017.3.26〉

なお国立公文書館つくば分館にて開催された「江戸の怪事件―江戸の怪奇現象ファイル―」（平成二十六年七月二十二日―八月三十日）においても紹介された。

2 内閣文庫所蔵史籍叢刊第32巻『文政雑記 天保雑記（二）』（汲古書院、昭和五十八年、五頁）。